

令和 6 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	7 4	学 校 名	静岡県立浜松湖南高等学校	記載者	神村 佳代
------	-----	-------	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、能動的学習者を育成する	・「授業や家庭学習で学力が向上した」生徒 90% ・「授業の中で、自分の考えをまとめたり、周囲と共有したりする機会が多い」生徒 93% ・「授業で ICT が活用されている」生徒 85%	A	A	・授業改善により、分かる授業が展開され、家庭学習の改善に役立ち成果を上げていると思う。 ・授業アンケートの 2 回の実施とその結果を踏まえた授業改善への取り組み、ロイロノートの導入を踏まえ、成果目標を十分に達成していると考えている。ロイロノートについては、利用する教員数がまだ多くはないようですので、今後の活用の広がり期待したい。 ・成果目標をすべて達成したことは高く評価できるので、今後も継続して授業改善の推進及び ICT 活用の拡大（ロイロノート）に取り組んでいただきたい。
イ	低学年から高い志の育成に努め、進路実現を図る	・1 年生で志望分野が決定した生徒 95%以上 ・2 年生で第一志望先が決定した生徒 95%以上 ・3 年生で 1 学期中に第 1 志望に対する研究ができた生徒 95%以上 ・進路情報の提供に満足している保護者 90%	A	A	・積極的な情報発信や講演講座等の実施の成果が表れている。 ・大学への進学実績が毎年残されているのは 1 年生からの進路指導が充実しているからだと思う。 ・成果目標をすべて達成されているが、1 年生で決定した志望分野が 2 年次、3 年次で維持されているか、それに満足しているかという点についての追跡調査の必要性も感じる。 ・進路実現に向けた具体的なロードマップを描き、明確な達成指標を基準として高い成果を出すことが出来ている。 ・進学が注目されているが、キャリア教育に目を向けることも必要。

様式第 5 号

ウ	規律ある生活の中で、 自主・自律の精神を育成する	・挨拶ができる生徒の育成 ・「校則等を守り、高校生らしい服装・行動をしている」生徒 95% ・「学校行事や部活動等に生徒が主体的に取り組んでいる」生徒・教職員 95%	A	A	・舞阪駅周辺での生徒の様子からすると、高校生らしさが感じられる。 ・学校運営協議会で貴校に伺った際の印象から、生徒さんの挨拶や服装等は問題なく、また、協議会のご報告から、各行事、部活動に積極的に取り組む生徒さんが多いことがうかがえる。生徒の規範への意識づけと主体性の育成に引き続き尽力いただきたい。 ・生徒の主体性を伸ばすために、教員が支援する体制が構築されている。
エ	読書習慣の定着と読書量の増大、文化的活動の推進を図る	・読書週間 年 2 回実施 ・図書館開放年 190 日 ・1・2 年生の年間読書数平均 10 冊	B	B	・図書館の利用可能日数からすると、生徒が自分の読みたいものを借りられると思う。 ・2 年生の読書量が目標よりも低い水準であったことから、B 評価といたしました。先生方や図書委員の取組により、御校の生徒に読書文化が根付いていくことを期待している。 ・本を読むことは知識や教養が身につくだけでなく、語彙力が豊かになるなどメリットが多くあるため、読書機会の提供などを継続していただきたい。 ・図書館の開放日が目標未達であるが、教員負担とのバランスも重要。今後のボランティアの活用等も含めた状況改善に期待したい。
オ	心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	・「自分の悩みや不安がある時、それを打ちあける人や機会・場所がある」生徒 90% ・健康観察を通じての情報共有 ・校内の清掃点検において全チェック箇所が良好な状態になっている。	A	A	・生徒や教職員のメンタルヘルスや安全・安心への意識につきましては、引き続き対策をお願いしたい。 ・生徒だけでなく教職員も含め、一つひとつ丁寧に課題を解決することで、心身ともに健康で過ごすことができる校内環境の整備に繋がることに期待したい。 ・定期的な生徒の心身調査を実施し、教員の対応スキル向上にも取り組んだ上でスクールカウンセラーの活用につなげている。以前はスクールカウンセラーの相談希望需要に対してカウ

様式第 5 号

		・「訓練や研修会等によって安全・安心に対する意識が高められた」生徒・教職員 90% ・施設・設備の事故 0 件			ンセリングの対応度に課題があることもあったが状況は改善されていると感じる。
カ	職員の校内外の研修を充実させる及びワークライフバランスの推進を図る	・探究学習、育てたい資質・能力、を意識した研修機会の充実 ・「研修機会を積極的に活用した」事務部職員 90% ・管理職による定時退庁の働きかけ ・業務改善の実施年間 1 件以上	B	B	・研修で学んだ実践例や知識を習得している。特に ICT の活用も増えているのは研修の成果だと思う。 ・生徒の学習環境や指導・フォロー体制の強化について具体的な成果が出ている反面、教員の負担軽減については非常に多面的な調整が必要であるが、今後の状況改善に期待したい。 ・事務職員の研修機会の活用の比率で評価できる。
キ	地域・中学校・保護者等への広報発信を、計画的・継続的に行う	・「教育方針・教育活動をわかりやすく伝えている」保護者 90% ・管理職・運営委員による中学校訪問年 2 回以上 ・「教育活動に魅力を感じた」中学生一日体験入学・オープンスクール参加者 96%	A	A	・ホームページはシンプルで見やすく、学校の魅力を発信できている。 ・先生方の努力により、情報発信（インスタグラム開設）が充実し、保護者や地域の方々にも高く評価されたことがうかがえる。 ・広報活動を充実させることは、保護者をはじめ地域・中学校への情報発信には重要であるため、今後も継続していただきたい。 ・「伝える」ではなく「伝わる」という成果を意識した取組がなされている。
ク	グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	・「国際交流事業がグローバルな視野の育成に役立った」生徒 90% ・英語学科の生徒が卒業時までに英語検定 2 級以上取得する割合 90%	A	A	・イギリスヘンドン校との交流、台湾明道高級中学との交流、近隣の外国人学校との交流を図るなど、充実した学びだと思う。 ・国際交流事業が積極的に展開されていること、英検の成果から、貴校の教育により、生徒さんの英語力が向上していると考えられることについて、非常に高く評価できる。 ・外国の文化や生活様式を体験できることは、生徒にとって貴

様式第 5 号

					重な経験となることから、国際交流のさらなる充実に期待したい。 ・台湾とのオンライン交流など新しい取組が実現し、活発な活動が行われている。
ケ	参画と連携・協働による生徒の異文化理解・多文化共生及び地域と連携した学習に取り組む	・「様々な交流・連携事業への参加により異文化理解が深まった」生徒 95% ・国際交流・異文化理解・多文化共生・高大連携事業等への参加希望生徒延べ 250 人	A	A	・多彩な交流事業（オーストラリア、イギリス、台湾）が展開され、そこへの参加が生徒の動機づけにつながったことがうかがえる。課題として挙げられた 3 点のうち、とくに持続可能な交流機会の創出と参加の均等化につきまして、次年度の対策に期待したい。 ・国際交流・異文化理解・多文化共生について、今後も多彩な交流機会の提供を継続することで、多くの生徒が参加できるようにしていただきたい。 ・海外・異文化・地域への意識を高め、活発な交流機会の創出に取り組み成果につなげることができている。 ・学校として十分に機会提供している。交流を通して相互理解をした後、それをいかにして深めていけるかが課題であり、多文化共生を実現するためには知識と情報が不可欠である。そのためにも、近隣ムンド校との新たな交流事業を企画してみたい。